

## 編集後記

### 編集長(ダン シロウ)

編集中の大事件を思い出すと、2011年3月の「東日本大震災」。マガジン第4号の校了間近だった。大慌てで、とにかくあの時期の対人援助について、思うところを書いた。

そして今回、2020年3月、第41号の迎えた大事件は新型コロナ禍だ。

息長い作業を続けていると、いろんな事に遭遇してしまうのは当然だ。不安がったり、誰かを批判したりではなく、対人援助学マガジンの視座から、今回の事態を騒ぐのではなく、見つめている。

とはいえ、正直なところ、疫病の蔓延で都市が破滅してしまうような話は、過去の世界史の中のことだと思っていた。武漢市のロックダウンだって、わざとらしい強権発動の訓練の印象がぬぐえなかった。

なのに、そう時間がかからないで、仕事場のある京都も空っぽになった。錦市場の異常な混雑ぶりを見ていたので、最近の閑散ぶりには驚きが隠せない。過剰インバウンドをアテにしていた業種は、突然の災難で廃業に追い込まれる話も聞こえ始めた。

私のWSや講演、講座なども、3月からすべて中止、延期になった。仕方ないことだし、復旧後も、元のようにはないと思うので、冷静な検討、分析が必要だろうと思っている。私など、ネバならない仕事でも、立場でもないの、事態の収束を待って、新たな枠組みを思案しなければならないだろうと思っている。

対人援助学マガジンはコロナ禍の影響を受ける仕組みにはなっていないので、粛々と継続するだけである。むしろ今回、原稿の到着が全体に早い。

こんな時には、自分の身边に形成されたシステムを吟味しておくことだ。誰かにおおられたり、刷り込まれたりしているモノはこの際、整理縮小するきっかけだと思うことだろう。

### 編集員(チバ アキオ)

家族との面接をしていると、誰かが亡くなっているときには、その死因や経過をできれば聞くとよいといわれる。家族の死は基本的にはストレスであろう。ただ長く患っていて、余命も言われていて、本人も苦しんでその後迎えた大往生といわれるような死と、朝「行ってきます」を最後に、突然訪れた死は異なる。それは突き詰めると予測されていたか、予測されていなかったかの違いである。

今回のコロナは予定されなかった経験を全国民がした。不本意なこともたくさんあったのは言うまでもない。そんな中で、私は4月の変化を予定していた。そう言った違いが他の人とあるんじゃないと編集長にご指摘を受ける。本人としては納得。と同時に私が変わったのか、世界が変わったのかわからない思いもたくさんあった。

変化は必ず起こる。変化は避けられない。永遠に続くものはない。そうであるならば、その変化をどう自分の人生に起こすことが、より満足度があるかに直面させられた。

少なく見積もっても、経験する変化のバリエーションも多様な方がよい。ワンパターンであることと、うまくいかないことが組み合わさると真性ワンパターンのドツボに陥るからである。

こうもできる、ああもできる、から、今回はこれを私はする。となれば自分の決断であり、自分の選択であり、結果としてのリターンがある。

マガジンを書く、マガジンを編集する、マガジンをネット上で掲載する。仕事でもなく、義務でもない。未来に対して、自分ができるところをやるという選択ができることは、必ず自分に返ってくると信じる。

### 編集員(オオタニ タカシ)

今号から目次のページ入れを担当しました。今後、ページ関係でミスがあった場合、私由来です。目次編集の作業をしてすぐ、とてもやり慣れている作業であると感じた。手を動かしながら頭の中を探ると、発達検査の換算表を作る作業と酷似しているとわかった(マニアックですみません)。この得点からこの得点までの人は、発達年齢が〇ヵ月相当

で…、という表を作るのですが、これは目次に置き換えると「このページからこのページは、〇〇さんの連載で…」にそのまま置き換わります。これまでの経験の何が、後に活かされるかなんて、わかったものではないと改めて思います。

今号は、執筆者短信にも、連載の内容にも、新型コロナウイルスの影響が色濃く表れました。誰もが予測していなかった不確実な未来の方に、大きく舵が切られたと言うことができるかもしれません。ですが、自分の人生には予測可能な範囲のことしか起こらないというのも、思考があまりに貧しいのかもしれませんが。人には予想外のことも起こると織り込んだ上で、なお人を支える対人援助の営みについて、引き続き息長く考えていきたいと思う、マガジン 11年目の春です。

## ■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は  
[danufufu@osk.3web.ne.jp](mailto:danufufu@osk.3web.ne.jp)

### マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町438  
ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

## 対人援助学マガジン

### 通巻41号

第11巻 第1号

2020年06月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第42号は2020年09月15日  
発刊の予定です。

原稿締切2020年08月25日！

## 執筆者募集

11年目を迎えたマガジン。新たな書き手を求めています。

新たなジャンルからの、書き手の登場に期待します。

自身の生活スケジュールに本誌「連載」を持ち、継続的に、

自分だからこそ描ける分野の記録を発信したいという方からのエントリーを待っています。

連載誌です。必要な回数を、心置きなく書いていただけます。

ご希望の方、編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。

執筆資格は学会員であること。非会員で書いていただく事になった方には、対人援助学会への入会をお願いします。

## 対人援助学会事務局

540-0021

大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL&FAX学会専用 06-6910-0103

## 表紙の言葉

キングコングは団塊世代の子どもにとってアイコンだった。

スマホ登場前の世界を変えたのは「ウォークマン」。あれで音楽を聴く人間の行動が激変した。

そんな時期のCMにチンパンジーがウォークマンで音楽に聴き入っているのがあった。たしかその前の猿は、「猿でも反省できる」というキャッチコピーのCMだった。

摩天楼の上のキングコングは、怪物の役回りを果たして、飛行機を落とそうとしたが、このキングコングはじっと音楽を聴き入っている。

映画「猿の惑星」の登場はこの頃だったか？調べれば分かることだが、面倒くさい。

ただ、近年の人間（権力者）は、洋の東西を問わず無知で野蛮なのが加速している気がする。嫌な時代への突入感プンプンである。

(2020/06/15)